

平成 27 年度 第 5 回ふるさと元気懇談会 会議録（要旨）

テーマ 「地域資源を活用した多様な地域社会の形成を目指す」

～宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略より～

【日 時】	平成 27 年 11 月 27 日（金） 17 時 00 分 ～ 17 時 30 分
【場 所】	宇部市役所 2 階 市長応接室
【出席者】	○久保田市長 ○宇部フロンティア大学附属香川高等学校 インターアクトクラブ（4 名） ○事務局（広報・シティセールス部広聴課）2 人
【概 要】	1 開会あいさつ 2 インターアクトクラブ会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 参加者自己紹介 5 意見交換・懇談 6 閉会
意見交換・懇談	
【インターアクトクラブ】	<p>・香川高等学校インターアクトクラブは、ボランティア活動と国際理解のふたつを柱として 1965 年 12 月から活動を始め、今年、創立 50 周年を迎える。</p> <p>・宗隣寺の清掃活動や、宇部総合支援学校での交流会、福祉施設高嶺園もちつき行事のお手伝い、校舎内外および通学路の清掃など、地域の方々やロータリークラブとともに、ボランティア活動を行っている。</p> <p>・山口県内や広島県内のインターアクター（インターアクトクラブ会員）と一緒に研修会や交流会に参加するとともに、海外研修旅行では韓国でホームステイをし、現地のインターアクターと親交を深めている。</p>
【市 長】	<p>・インターアクトクラブの活動をとおして学校や家庭以外の多くの人と出会い、貴重な体験ができると思う。例えば、宇部支援学校での交流会ではどのようなことをしたのか。</p>
【インターアクトクラブ】	<p>・清掃活動や畑仕事等の作業を支援学校の生徒と一緒にいった。</p>

作業以外にも、わた菓子作りや体育館での遊戯等、参加者全員で楽しめるような交流も行っている。

- ・障害のある人との交流は、自分の価値観を変えるチャンスだと思っている。

【市長】

- ・活動することで、得ることがたくさんあると思う。これまでの活動で心に残っている活動はあるか。

【インターアクトクラブ】

- ・平成27年7月から8月にかけて行われた「世界スカウトジャンボリー」にボランティアスタッフとして参加した。その際、会場でごみ拾いや案内等の活動に取り組んだ。「写真を撮るときに日本人はピースサインをするが、海外ではピースサインはよくない意味がある」など、海外からの参加者と交流し、文化の違いを体感できた。
- ・あいさつ運動を実施しているが、いろいろな人とあいさつできるのが楽しみである。小学生に教えることもあるが、逆に教えられることもある。
- ・活動をとおして異文化に触れることがあり、日本人としてのアイデンティティについて考えることができる。
- ・歳末バザーに参加した。大人のボランティアの方が多かった。自分たちは大人のボランティアがいるから活動ができているのだと思った。

【市長】

- ・インターアクトクラブはすばらしい活動をしている。ジュニアのボランティアは少ないので、リーダー的な存在として活動を続けて欲しい。
- ・宇部市は大気汚染で苦しんでいた時代があった。公害を克服するために「緑と花と彫刻のまち」を目指した。人の心を豊かにするために芸術文化を大事にする思いで彫刻を飾った。これらは、全てボランティアから始まった。
- ・民生委員、児童委員など暮らしの相談役として各地区の人々をサポートしている人たち、また、自治会長など快適で住みよい地域づくりのために活動している人たち。地域社会はボランティアで成り立っている。
- ・ボランティアは「助ける」イメージが強いが、一緒に何かを作り上げる「クリエイティブ」なボランティアもある。広い意味でボランティアを捉え、活動を続けて欲しい。

【インターアクトクラブ】

- ・100周年へ向けて、インターアクトクラブに求められている役割や地域に根ざした活動のあり方を私たち自身が考えていく必要がある。
地域社会のリーダーである市長にぜひアドバイスをお願いしたい。

【市長】

- ・大震災では、多くの被害者が出た。自分に何ができるのか、何かしなくてはと日本中の人が思った。その思いが募金となり、現地での復興に向けた活動となった。
- ・宇部市も災害復興のため職員を派遣した。市民の皆様からも何かしたい、何かできることはないかとの多くの申し出があった。
- ・災害時だけでなく日常的に、サポートを求めている人や一緒に活動する仲間を求めている人がある。ボランティアは身近なところから始めることができる。
- ・日本だけでなく世界の変化も見つめて欲しい。若い感性で社会情勢の変化をとらえ、仲間たちと議論して欲しい。議論していくことで、自分たちがやりたいこと、できること、クラブの新たな目標などが見つかると思う。これからも活動を続け、仲間を増やし、明るい未来を創って行って欲しい。